

「桜満開! (5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小石川播磨坂のサクラ並木は、本来「環状3号線」の一部として設置された道路だ。環状2号線が「外堀通り」、環状4号線が「不忍通り」なので、その中間に位置するはずだった。しかし、南北両端が、その先の道路につながっておらず、この区間だけが「島」のように取り残されてしまった。



この絵の交差点も、かつては「環三通り」という名称だったが、現在は「小石川播磨坂」となっている。1995年に文京区の緑化事業の一環で、中央の2車線が遊歩道化され、お花見の時期には、多くの人で賑わっている。



この並木のサクラはソメイヨシノで、1960年に植樹されたものだ。道が広い割には、交通量も少なく、トラックやバスもほとんど通らない。サクラの木々にとっても、生育には良い環境なのだろう。どの木も非常に元気に見える。



このサクラ並木の特徴は、中央分離帯(遊歩道)だけでなく、左右の歩道にもサクラが植えられていることだ。延長約450m、幅40mの道路に、サクラが約120本。それほど規模ではないが、山手線内で、こうした景観が見られる住宅地は、他にないだろう。



茗荷谷方面から、植物園方面に播磨坂を下ると、千川通りにぶつかって、通りは終わる。この坂も、武蔵野台地(小石川舌状台地)と小石川低地に向かって下る「段丘崖」の坂道の一つだ。



千川通りから少し行ったところに、小石川植物園の正門がある。奥にサクラの木が見えている。晴れた土曜日だったので、多くの人で賑わっていた。